

## 中島康予法学部長 乾杯のご挨拶

本日、ディルク・エーラーズ先生のご功績を顕彰し、先生に名誉博士の学位を贈呈できたことは、中央大学にとって名誉なことでございます。また、本日、ここにお集まりの皆さまとともに学位贈呈をお祝いできますことは私にとりましても大きな喜びでございます。

英吉利法律学校として創設された中央大学は、来年、創立 130 周年を迎えます。そのような歴史をもつ中央大学の法学部および日本比較法研究所におきまして、ドイツ法を柱とするきわめて優れた、豊かな研究・教育の成果が蓄積されてきました。このことは、日本の近代化、第二次世界大戦後の民主化の道程をふりかえるならば、当然の結果であるということもできるでしょう。しかし、このような蓄積は一朝一夕になるものではありません。ここにお集まりの先生方はもちろんのこと、一つ一つの石を積み重ねてこられた先達のご尽力の賜物です。そして何よりも、比較法研究、日独の学术交流の発展・深化においても枢要な役割を担ってこられたエーラーズ先生のご貢献なくして達成することのできなかつた成果であると存じます。既に、贈呈式においてご紹介のありましたように、先生は、ドイツで公法学を学ぶ多くの研究者や学生に良好な研究環境を用意され、ご家族で暖かく迎えてくださったと伺っております。先生の学術研究・教育はもちろんのこと、そのような先生のお人柄に接することができたお一人お一人にとって、それは、僥倖であり、これに優る喜びはないのではないかと推察いたします。その意味で、本日は、これまでの学术交流の到達点を確認、先生に感謝を申し上げる日であるとともに、今後の交流のさらなる進展に向けて次の一歩を記す日でもあると存じます。

エーラーズ先生への名誉博士学位の贈呈をお祝いし、先生が、本学を始め日本とドイツとの学問的な交流において、今後ますますご活躍されること、先生のご健康・ご多幸を心より祈念し、乾杯をしたいと思います。